

カトリック

広島教区報

平和行事

「今、殉教を生きるとは？ キリストの平和を広げよう」



8月5日平和祈願ミサ

今年も八月五日、六日、九日にかけて平和行事が行われました。今回のテーマには、この列福の年に、身をもって神の国に生きることを証し殉教された先輩方にならって、私たちも現代社会においてキリストの平和を大胆に証している、という思いが込められています。

被爆証言は二百名、ピースウォークは百名、原爆供養塔前の集いは九百名、平和行進は八百名、平和祈願ミサは九百名、原爆および戦争犠牲者追悼ミサは四百五十名、その他のプログラムにも多くの参加がありました。

No. 74

カトリック
広島司教区
発行責任者
広報担当
服部大介神父

広島市中区織町4-42
広島司教館内
TEL (082) 221-6017

平和行事を終えて

実行委員 高濱 和浩

この行事に関わっていて、毎年思うのは若い人達がとても多いということ。そして広島地区以外の参加者がとても多いということです。

岡山・鳥取地区は岡山教会を中心にしてバス二台で参加してください。遠くは埼玉・東京・横浜から、また大阪教会管区でいけばすべての教区が巡礼団を作り、広島にやってきました。



原爆供養塔前祈りの集い

私は毎年、事前に巡礼の下見で来たリーダーに広島案内をしています。彼らは事前勉強をとっても熱心にされています。毎回そんな視点があるのかと気づかせてもらったことばかりです。

戦争から始まった加害の歴史(広島)、原爆の被害のこと(ヒロシマ)、復興の広島を学び、祈り、行動し、分かち合いをされています。毎年巡礼を積み重ねることによって、広島の人々の案内を頼らず加害の歴史を見る宇品・比治山・広島城近辺を回ることができています。しかし過去には迷った目的の場所にたどり着けなかったこともあるそうです。



平和行進

の大切さを理解していなかったと思う。大切な命がある。でも戦争がおきれば、命が軽く見られることを広島で学びました。命がなくなるという事は、その人と永久に会うことが出来なくなる事。ふざけたり、笑ったり、真剣に話をしたり、けんかしたり...それが二度と出来なくなる。病氣などで亡くなるのだしたら我慢できるけど、戦争は、自分が人を殺すことになるかもしれないし、殺されるかもしれない。絶対にいや。二十世紀、戦争が原因で亡くなった人は一億人以上と言われています。そのうち二千万の犠牲者は日本に責任があると言われています。亡くなった犠牲者の顔をひとつずつ描いてみてください。広島で言うなら

折り鶴を二千万ほど折ってみてください。とても簡単に折れる数じゃない。だからこそ今の憲法九条は絶対大切にしなければいけません。二千万の尊い命の上に憲法九条があると思う。」と語っていました。

来年も多くの人たちが広島に来られます。すでに広島巡礼の計画を立て始めている教区もあります。

どうぞ彼らを受け入れてください。関わってみてください。話しかけてみてください。関わることで平和が生まれます。関わることでお互い平和を受信そして発信できると思います。

被爆者証言

「被爆証言」は広島の平和行事の一つの中心です。とりわけ、直接被爆の体験をした人が少なくなっています。今は貴重なものです。

今年も、例年の参加者の多さを踏まえて会場を四会場にしました。前半三会場長谷川神父、加藤良夫さん（祇園教会）、砂田房子さん（祇園教会）《参加者約一五〇名》、後半は小学生

を対象に、加藤文子さん（祇園教会）《約五〇名》と、各会場とも熱心に聞き入る人たちがいました。

その中で、当時一九才、軍需工場であった三菱精機製作所に勤め、建物疎開の手伝いで小網町で被爆された砂田房子さんの話、ご自身が当時の惨状を描かれた七点の絵、川面（天満川）に浮き沈みしながら流されていく人、川べりで水を飲みながらそのまま流されていく人、川の中は、人、人、人；で、まるで地獄絵図の様だった、川下の方は川の中が火の海になっていたと、赤裸々に描かれた自作の絵を、声詰まりながら説明されました。

「原爆が何故悪いのか、恐ろしいものか、皆さまざまよく知っておられると思います。地球上に人間が住めなくなることを他人のことに考える人達がまだ多くいることが残念です。原爆に苦しんで死んで逝った人、今も苦しんでいる人たちのことを忘れないで生きて行きたい。」と結ばれました。

広島の殉教者⑤（伝道士 ダミアン）

伝道士ダミアンは、境出身、四十五歳前後で殉教したことしか殉教録には記してなく、出生に関する詳しいこと、両親の名前も日本名についても伝わっていません。この世に生を受けた時から視力に障害があり、当時の混迷した社会状況の中で琵琶法師として生計をたてていました。一五八七年七月に、山口で受洗しダミアンという洗礼名をいただきました。

琵琶法師のダミアンは、智恵と記憶力に秀で、日本の諸宗教に精通しており、有能な宣教師として働き始めました。奇しくも、平戸出身で、目が不自由であった琵琶法師ロレンソ了齋が一五五一年に山口でザビエルから受洗し、日本の教会の最初の四十年間の一番優れた伝道士として活躍しました。

一五九九年、毛利輝元は山口に教会を建てることを許可し、後に殉教した「日本二百五福者」の一人パウロ・ナバロ神父が赴任しました。一六〇〇年、関ヶ原の戦いに敗れ、周防・長門両国（現在の山口県）を確保した毛利輝元は、徳川家康の意向に従い、宣教師を山口から追放し、信者の改宗・棄教を命じました。一六〇二年八月か九月、神父と修道士は山口を去り長崎へ向かい、その時からダミアンは熊谷元直とともに司祭不在の山口の教会の中心人物となりました。熊谷元直は萩に移り、普請奉行と

して築城工事をめぐる事件をきっかけに、一六〇五年八月十六日、殉教しました。三日後の八月十九日、毛利輝元の命令により、山口のキリシタンの指導者ダミアン伝道士の処刑が実施されました。ダミアンは、「死に向かつてゆくよりも、或る大きな祭か盛大な宴会に出かけるかのよう」に最も立派な服を着て殉教の準備をし、出頭しました。キリストの教えを棄てて改宗するよう強く迫られながらも、いかなる拷問にかけられても信仰を放棄しない、人間の救いを約束する真の教えはキリスト教しかない、そのためいのちをささげる覚悟であると確信をもって語りました。

刑吏は、騒動を避けるため、夜半に、ダミアンを湯田に向う街道へ連れ出しましたが、ダミアンは、一本松という処刑場への道であることを敏感に悟り、「目の見えないわたしに、夜道などありません。まして、主イエスの十字架への道は、はっきり見えます」と言ったと伝えられています。

使徒パウロ生誕 二千周年の特別免償

教皇庁内教院は、五月十日、パウロ年（二〇〇八年六月二十八日～二〇〇九年六月二十九日）に際して与えられる特別免償についての教令を發布しました。この教令は、パウロ年の開催を機会に、定められた条件を満たした者に免償を与えることを定めたものです。

ローマに巡礼される方

心から痛悔し、ゆるしの秘跡を受け、聖体拝領を行い、聖パウロ、教皇大聖堂（サン・パオロ・フオリ・レ・ムーラ大聖堂）に巡礼を行います。そして、教皇様の意向のためにお祈りすること、主の祈りと使徒信条を唱えること、聖なるおとめマリアと聖パウロをたえる祈願を祈ることが必要です。ただし、全免償は一日一回しか受けることができます。

教区内で巡礼される方

通常の条件（ゆるしの秘跡、聖体拝領、教皇の意向のための祈り）を果たし、あらゆる罪への傾きから離

れることが求められます。

広島教区内では、巡礼教会として岡山教会・玉野教会・幟町教会（世界平和記念聖堂）・山口教会（サビエル記念聖堂）・高千帆教会・松江教会を定めました。また、巡礼地以外の教会では、聖パウロにさげられるミサ、ないし、公に行われる行事に敬虔な心で参加することが必要です。

病気で巡礼または小教区のミサに参加することができない方

病気がないしその他の正当かつ重大な理由により上記の条件を満たすことのできない信者も、つねに罪への傾きから離れようとする心を持ち、できるかぎり早く通常の条件を満たすことを望むことが求められます。そのために、聖パウロを記念する聖年に霊的に参加し、キリスト者の一致のために祈りと苦しみを神にさげてください。

ペトロ岐部と百八十七殉教者「列福式」

ペトロ岐部と百八十七殉教者の「列福式」が、教皇ベネディクト十六世から派遣される特使を迎えて十一月二十四日（月・振替休日）に長崎市で執り行われます。

新しく「福者」の列に加えられる百八十八人の殉教者の中に広島教区で殉教した五人がいます。

広島教区にとって、教皇ピオ九世により一八六二年列聖された「日本二十六聖人」のひとりデイエゴ喜斎（岡山県出身）に次ぐ信仰の道を歩く先達をいたたく喜びとなります。

日本の司教団は、四半世紀にわたる準備を経て、わが国での初めての「列福式」を「たんなるお祭り騒ぎや催しに終らせることなく、日本の教会が自信と活気によりいつそう満ち溢れるきつ

かけ」とすると決意を表明しています。＊
わたしたち広島教区も、「平和の使徒となろうー今、殉教を生きたら？」を今年のテーマとして歩んできました。

この度「福者」の位にあげられる殉教者たちは、十七世紀前半の日本の社会状況の中で、イエスの福音に出会い、受け止めた福音を支えに生き、苦難と迫害を耐え、いのちを懸けて信仰を守り抜いたのです。彼らの生き方と死に方は、現代日本に生きるわたしたちキリスト者に、イエスの福音が語る価値感に基づいて生きるため、またキリスト者のアイデンティティを深めるための示唆と光をもたらしてくれそうです。

- | | | | |
|----------|---------|---------------|-------|
| 1、メルキオール | 熊谷豊前守元直 | (1605年 8月16日) | 萩で殉教 |
| 2、ダミアン | | (1605年 8月19日) | 山口で殉教 |
| 3、フランシスコ | 遠山甚太郎 | (1624年 2月16日) | 広島で殉教 |
| 4、マチアス | 庄原市左衛門 | (1624年 2月17日) | 広島で殉教 |
| 5、ヨアキム | 九郎右衛門 | (1624年 3月8日) | 広島で殉教 |

「列福式」が広島教区また小教区共同体にとって、わたしたち一人一人にとって、「殉教」すなわち「信仰を証しする」ための新しい

一歩を力強く踏み出す「恵み」と「祝福」の機会となりますように。

一、「列福をひかえ、ともに祈る七週間」
十月五日（日）から七週間。「列福をひかえ、ともに祈る七週間」（日本カトリック司教協議会列聖列福特別委員会 編 二〇〇八年六月三十日、カトリック中央協議会発行）を参照してください。

二、「列福式」
日時：十一月二十四日十二時（月・振替休日）
場所：長崎ビッグNスタジアム

三、「列福式」に
参列されないみなさま
当日のミサと祈りを「列福式」の意向に合わせてさげてください。

四、広島教区五殉教者
「列福」記念行事
広島教区としての公式記念行事は未定です。詳細が決定されましたらお知らせします。

＊「列福をひかえ、ともに祈る七週間」前掲書 一ページ

パウロ年
使徒パウロ生誕 2000年
パウロ年のポスター



地区便り 広島地区

第二十四回広島地区召命巡礼二〇〇八年九月十五日(月)

司祭・修道者の召命のために

みんなで祈り、共に歩こう

長崎純心聖母会広島修道院 シスター浦田むつ子

今年、雨の為祇園教会までの全行程を共に歩く巡礼は難しく、翠町教会から観音町教会までの短い巡礼となり、観音町教会でのお話と祈りの後、召命祈願ミサが続き解散となった。また、幟町教会から観音町教会までの移動も自由行動。歩く人、電車で行く人様々だったが、「司祭、修道者の召命が増えますように！」との参加者の願いは一つで、最終的には、締めくくりとなるミサに、およそ百人の信徒が集い祈り

を捧げた。その中の十四人は、前日から開催されていた小、中学生の侍者会に参加していた子ども達。若さあふれ未来への希望に満ちている彼らの存在が、皆の大きな喜びとなった。ミサの中で、パンとぶどう酒を献げる子ども達を見守る信徒達の顔に、その喜びが現れていた。そして、奉獻後、原田神父様を中心にした男の子六人女の子八人の子も達も、祭壇を囲みミサが続けられた時、一人一人の顔を眺めながら、この中から、一人でも二人でも司祭、修道者への召命を考える人が出ますようにと願ったのは、きつと、私一人だけではなかつたらうと思う。その時、ふと別の事も考えてしまった。



子どもたち

今は、まだこうして、司祭の手を通してミサが献げられているが、もし司祭の召命が減少し最悪途絶えてしまつたら……。イエス様が残してくださつた記念のミサも出来なくなるし、私たちのために残してくださつた、命の糧であるイエス様の御体と御血もただけなくなる。大変なことだ。絶



全体参加者

対このような状況を許してはならない。本当に真剣に祈り続けなければと。広島教区信徒の皆さんも同じ思いだと思う。そこで「神様がお望みでしたら、どうか、私の家庭から、司祭、修道者の召命が育ちますように！」そして、「もし、召命がありますならその呼びかけに、気づく開かれた心とそれに応える勇気が与えられますように！」と心を合わせて先ず身近なところから願いを込めて祈りを献げましょう。

小、中、高校生、青年の

JCARM広島便り

フィリピン

呉教会

ジェリー・レクタク神父

カトリック幟町教会のよう、カトリック呉教会でも毎日曜日に英語ミサが行われます。このミサに参加している外国人の約百人の九割はフィリピン人です。圧倒的な数は若い研修生です。この若者たちは三年契約で呉のいろいろな企業で働いています。特に造船の企業で。英語ミサに与るほか、彼らもさまざまな教会活動に参加します。

この呉教会のフィリピングループは正式な組織がまだ成立されていないのですが、教会共同体のメンバーとしては大きな存在です。教会の中でこの元氣な若者の姿を見ると、信仰が生き生きとし、未来のカトリック教会が見えてきます。これからも互いに手をとって聖霊の働きを信じて、キリストに従って一つの神の民の家族として歩んで行きたいと思ひます。

皆さん、司祭、修道者の召命なんて自分には関係ない、他人事だと思つていませんか？決してそうではありません。もしかしたら、神様はあなたの心の奥深くで、「わたしについていらっしゃ

本人信徒と交わりを深めるのに、月に一回日本語英語合同ミサが行われます。確かに言葉の壁と文化の違いで、コミュニケーションの難しさを感じています。しかし、教会共同体として言葉や習慣の違いを受け止め、一つの信仰で互いに豊かな神様の恵みを味わうことができます。

「わたしのお手伝いをしてくださいね」とおっしゃっているかも知れません。召命巡礼の為に協力くださつた方々、準備をととのえて来られた方々に感謝いたします。

岡山鳥取地区

《平和推進チーム》

六月の岡山空襲の日に「レクイエムコンサート」、終戦の日と九月十一日に「ピースキャンドル」など、教会内外から幅広く参加できる行事を行った。「広島平和巡礼」では地区内四教会から四十七名が平和行事に参加した。

《きょうどう推進チーム》

列福式の盛り上がりのために幟を作り、十一の教会に配布した。当日も何本か持参する。養成チームとタイアップしていく。

《養成推進チーム》

三回にわたる共育セミナーは「殉教者」「ミサ」(来住英俊神父)「家庭」のテーマで行う。「セブンスステップ」みことばの分かち合い、集會司式奉仕者、聖体奉仕者養成講座の実施「ともに歩む旅」(求道者と信徒同伴者による新しい入門講座)の実施、教会学校リーダーのネットワーク作りがある。

山口鳥根地区

《山口鳥根地区少年の集い》

十月五日(日)に、山口カトリックセンターでリーダー打ち合わせ。殉教者カルタ制作や日韓合同キャンプ報告などについて話し合う。

十月中に、日韓合同キャンプに参加した子どもたちと班リーダーに実施したアンケートを冊子にまとめ、地区内と参加者に配布。

《信徒使徒職協議会》

十一月二日(日)に今年度第2回の定例会開催。

《信者養成研修会》

十一月八日(土)〜九日(日)にかけて、福岡黙想の家で十一期生3回目の研修会を実施。

《教区養成出前研修会》

今年度第一回の出前研修会を十月五日(日)に、米子教会で実施。四旬節には出雲教会訪問予定。

※出前研修を希望する小教区は、教区養成推進チームにお申し込みを。

神学生合宿

隠岐の島へ

猪口大記神学生

九月四日から六日の日程で、神学生合宿を隠岐の島で行いました。今年は、遠隔地と言う事もあり、二泊三日の日程となりました。

隠岐の島では信者宅を訪ね、ミサにもなかなか与れないながらも、信仰を守り通しておられる皆様と交わりのひと時を過ごし、家庭訪問、ミサ、病者訪問等をさせていただきました。

神学生として、将来皆様に仕える者となる事がいかに喜びに満ちたものである事か、教えられ励まされた。この体験は私達の一生の宝物となると思います。



本場に有難うございました。

広島教区の施設 ①

エリザベト音楽大学

創立六十周年

戦後の混乱期に創立者E・ゴージェンス神父(イエズス会)が幟町教会で始めた音楽教室からスタートして、博士後期課程を有する全国レベルの音楽大学に発展することができたことは、多くの方々の心より感謝いたします。

昨年度より創立六十周年を記念する演奏会を開催していますが、その頂点として、全学をあげて世界平和を希求しつつ取り組んでいるベートーヴェン作曲交響曲第九番を十一月に演奏します。指揮は秋山和慶氏、ソリストは番場ちひろ、藤井美雪、枝川一也、河野克典の各氏です。十一月十四日(金)は広島市のフェニックスホールにて一八時半より、十一月十五日(土)は福山のリーデンドローズにて十六時より開演となっています。

エリザベト音楽大学の教育理念は次のとおりです。「教



エリザベト音楽大学中庭

(学長補佐 川野記)

養・実力・慈愛のある音楽家」の育成を目指し、①カトリシズム(普遍性)の精神に幅広い教養教育とおして、自分を大切にし、他者のために生きる人を育む。②音楽芸術および音楽教育に関する理論、技能、実践を教授研究する。③平和を愛し、地域社会および国際社会、とりわけアジア地域に貢献する人材を育成する。

近年、大学をめぐる環境、学生募集活動など非常に厳しい現実があります。しかしながら、「芸術を愛し、平和を愛する」という創立のヴィジョンを今いちど新たに、大学の教職員は丸となって教育活動に邁進してゆく所存です。

《青少年の活動》

教区練成会

『今、殉教を
生きるとは?』

練成会が八月十一日から十三日、今年列福される殉教者の一人、メルキオール熊谷縁の地である萩教会にて、教区テーマ『今、殉教を生きるとは?』に基づいて開催されました。

百八十八人の時代背景や、子ども殉教者に関しての講話を聞き、殉教とは何か、自分の十字架とは何かを一緒に考え、自分達で作った十字架を背負つての小巡礼、近代の殉教である浦上四番崩れ縁の十字架の下

全国カトリック
ボーイスカウト
キャンプ

四年に一度開かれる全国カトリックボーイスカウトキャンプが八月七日、十一日まで岩手県の国立岩手山青少年交流の家であり、担当司教の梅村司教はじめ全国から十人ほどの司祭と小学生、青年、指導

でのミサ、また最終日には、司教様と共にミサを祝う等、体験を通じて、主イエスに一致してキリストを証しする生き方を、少し学べたのではないかと思います。子どもたちが、喜びの内にも主と共に力強く歩む事ができますように。

(猪口神学生)



自分たちの作った十字架をミサで奉納

者、そして、今年タイとマカオからもスカウトを迎え約千人が集まりました。

広島からは観音町教会を活動の拠点にしている広島第二十四団のスカウト三人が参加し、パウロの言葉、「光の子として歩みなさい」をテーマに毎朝ミサで一日が始まる五日間、自然の中の活動をを通して全国のスカウトと交流しました。

山口・島根地区少年の集い

第十二回

日韓合同キャンプ

今回のキャンプテーマ「一つになるように」のもと、八月七日、十一日まで、南川聖堂の中・高生四十九名と少年の集いの中・高生三十二名とで、第十三回日韓合同キャンプが行われた。

キャンプ中は、天候にも恵まれ、釜山市内と教会の施設を巡るオリエンテーリングやスポーツ大会、宿泊施設でのゲームやキャンプファイヤーなど、いろいろと工夫された活動を、学生リーダー指導の下に行った。キャンプの最終日には、南川聖堂にて多くの信者さんとミサを献げ、ミサの最後には学生たちによる「よさこい踊り」を披露し、たくさん拍手をいただいた。その後、学生たちは、キャンプで一緒に過ごした韓国の学生の家にそれぞれホームステイし、フェリー乗り場で別れるときまでともに過ごした。二年後、学生たちの笑顔に会えるキャンプを日本で行いたいと思う。

海峡からの風 12

下関労働教育センターだより

●「朝鮮半島の植民地支配は歴史的事実に反する」 ●六月二十六日、下関市の教育長が朝鮮学園の教育補助金を求める申し入れの席上でこう述べました。その後にも新聞記者に対して「(日韓) 併合は対等な関係」とも発言しました。 ●「日清戦争ののち、台湾を植民地とした日本は、日ロ戦争後、朝鮮(韓国) を支配しようとした。朝鮮の人々の抵抗を軍隊がおさえ、一九一〇年(明治四十三年)、朝鮮を併合しました(韓国併合)。植民地の学校では、日本語の教育を受けることになり、朝鮮の歴史は教えられず、民俗のほこりを大きくきざつてられました。土地の制度が変えられ、その結果、多くの朝鮮の人々が土地を失いました」 ●これは下関で使われている小学校の歴史教科書の記述です。教育行政のトップである教育長と、歴史を学んでいる小学生の歴

史認識がまったく違う結果になるのです。 ●広島教区正義と平和協議会は代表である広島教区長の名前で、「回心を求める申し入れ」を出し、その中で前教皇の平和アピールの中から「過去を振り返ることは将来に対する責任を担うこと」と引用し、無責任な「発言がもたらす将来の日本の姿を、想像力を駆使して思い描き」子ども達への責任を明確にせよと訴えています。 ●学問としての歴史だけではなく、その時代に生きた人々の苦難を想像し思いを馳せることができるということ。教科書を通して教師から学ぶべき大切な事柄です。過去の歴史を想像し、未来に繋げていく作業が平和の礎の一つとなるからです。 ●「未来を創るのは、現在までの自分」と言います。今までの自分の生き方がどれほど後の人生に影響を及ぼすのか。教育長のこれまででの生き方が如実に問われた事件です。

(細江教会・廣崎隆二)

WYDシドニー大会 に参加して

私がWYD（ワールドユースデイ）に参加したのは、兄が前回のケルン大会に参加してとても素晴らしき体験ができたと聞いて、私も体験してみたいと思ったのがきっかけです。

同じ信仰を持っている人たちは何となく雰囲気分かるというか、同じにおいがするとか…そんな感じを受けました。これは日本人の人たちに限らず、世界中の人たちも同様でした。

三人の司教様によるカテゴリーズがあり、信じた

WYD in Japan に参加して

八月十四日から十七日まで、山梨県の山中湖の近くに男女二百人が集まり、WYD イン ジャパンが行われました。

今回のテーマは、「聖霊」。世界大会に合わせて日本でも同じテーマで進められま

気持ちと聖霊の働きが重なり信仰になることや、許したい気持ちと許しの恵み（聖霊の働き）が重なる人を許す事ができるなどのお話を聞く事ができました。教皇ミサでは、四十万もの人々が祈りのうちにひとつになるのを感じました。

今回参加できたのは、本当にみなさんのおかげだと思っています。特に家族の支えがなければ、こんなに素敵なたくさんのお会いもできなかったと思います。次回はスペインのマドリドであるので、是非是非皆さん素敵な体験をしてきて下さい！

（福山教会 伊藤泉）

した。司教様のカテゴリーズや、それを聞いてのグループでの分かち合いなどを通して聖霊についてたくさん考えさせられました。

私の心に残ったのは、東京の幸田補佐司教様の二つの言葉です。一つ目は、「聖霊は人と人をつなぐ時や、人と神をつなぐ時に働いています」という言葉です。聖霊は目に見えない

のでよくわからないなと思っていました。今まで私が体験した人との出会いの中や神様との出会いの中に聖霊が働いていたのだということがわかって、聖霊をととても身近に感じる事ができるようになりました。

二つ目は、「ミツシオン（使命）を感じられた時そこにも聖霊の働きがあります」という言葉です。今回の大会の中で私はなぜか「神様の望まれている道」とか「お言葉どおりになりますように」という言葉が歌や典礼の中で出てくるたびに心にひっかかりました。神様が私に望んでいる道は何か？私の生きる道についてはどういう使命が与えられているのか…？

溝部司教様が派遣ミサの中で、「WYDがただ楽しかっただけで終わってはいけません。これからが出発です。皆さんが自分のできることは何かということを考えてそれを実行することが大切です」と言われました。これからの毎日の中で、聖霊の働きを感じながら、そして、私にできるこ

とは何かを考えながら歩んでいこうと思います。

（福山教会 伊藤光子）

貧しくても、 家族はいつも幸せ インファンタ教区を 訪問して

八月十六日（二十一日）、中・高校生、大学生、神学生、神父など九名でフィリピン・インファンタ教区を訪問しました。私にとつて今回の訪問は色々なことを考えさせられる旅であり、大事な体験をいただく恵みに出会いました。

一番印象に残ったことはホームステイの家族と四日間生活したことです。Dancingunの家族は六人。彼の家の中大きな物はあまりありません。腕時計さえも持っていません。毎朝鶏の鳴き声を聞くと全員が起きて一日の生活が始まります。各々家の仕事を分担し、仕事が終わったら皆で食堂に集まって朝食をとりまします。朝食が終わったら子供たちが学校に行き、お父さんも仕事に行きます。午

後六時頃に夕食。夕食と言っても白いご飯と熟れたバナナと炒めるパイヤだけですが、喜んで食べ、笑いながら話して楽しんでました。その後に皆で寝る前の祈りをします。日曜日は朝早く色々なことを準備した後に皆で一緒に教会へ行きます。

人間は生活の中でお金と物が必要だけれど、それよりも精神的な面が一番大切だと思えます。豊かな生活でも一人ひとりが自分のためだけに生きると家族がバラバラになってしまいます。貧しくても家族の中で皆助け合って愛し合って、お互いのために生きるとその生活には天国が見えるでしょう。私たちは福音書に絶つて生きなければなりません。

「神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです。このようにしてキリストに仕える人は、神に喜ばれ、人々に信頼されまします。だから、平和や互いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか。」（ローマ十四、十七、十九）

（トウアン神学生）

NWM東京に 行ってきました!

九月十三日～十四日、第十五回NWM(ネットワークミーティング)が東京カテドラルで開催され、二百十七名の青年が十四教区から集まりました。NWMとは情報交換と交流を目的とした全国青年の集いです。今回のテーマは「東京パワー日本の中心でみんなとつながって素直に感謝をささ

げよう〜キミとボクとドキドキミサ〜」。

一日目は活気溢れるオーブンニングとミサで始まり、その後十二のグループに分かれ、ミサで感じることに疑問に思うことなどを分かち合い、夕の祈り、交流と各教区のインフォメーションを兼ねた夕食を終え分宿。

二日目朝はカテドラルに再集合。朝食後、午後に行われる手作りミサに向けてグループ毎に準備。そして

いよいよ手作りミサ。司式は幸田司教、郡山司教他六名の司祭。入祭から若者らしいパフォーマンスで始まり朗読、福音は聖劇風にアレンジされました。侍者、聖歌隊、祭壇、奉納と個性溢れる手作りミサでした。

♪東京パワー♪をすごく感じた一泊二日でした。

次回開催地は来年二月、京都教区。広島教区からもたくさん参加しましょう。(岡山南教会 山本厚治)

NWM 広島教区開催決定!

みなさん!二〇〇九年九月、NWMを五年ぶりに広島教区(岡山・鳥取地区)で開催することが決定しました!

全国の青年と繋がりをもちたい人、仲間がほしい人、他教区の青年の信仰と教会とのかかわりに興味がある人。そんなあなた!一緒にNWMを作りませんか?あ

ソフトボール大会に チームを組んで 出場しよう!

毎年恒例のソフトボール大会の季節が近づいてきました。是非チームを組んでご参加ください。
日 時:十一月三日(月・祝) 十時から試合を開始します。
場 所:芦田川河川敷
会 費:二百円。お弁当が必要な方は七百円。
申込み:福山教会

詳しくは、各小教区配布の案内または青少年情報センターのHPをご覧ください。



「銀祝を迎えて」

岡山南教会

瀧井英昭神父

四月二十九日に、司祭叙階二十五周年の銀祝のお祝いを米子教会でしていただき

ました。共同司式していただき、参列して下さった大勢の信者さん方に心から感

謝しています。

銀祝を記念して、五月から三ヶ月間のサバティカル(研修休暇)をいただき、ロサンゼルスの日系人教会に滞在してきました。

二〇〇一年四月から二〇〇四年三月までの三年間、ロサンゼルスの日系人教会で司牧をしていましたが、今回その時にお世話になっ

た人たちと旧交を温めることが出来、楽しくて素晴らしい三ヶ月間を過ごすことができました。

日系人教会には日本からの駐在員家族やアメリカで仕事をめた日本人、二世から五世までの日系人がミサに参列しています。お年を召された二世の方々は、子どもの時に家庭で日本語を話すか英語を話すかで母国語が違ってきます。また、

年を取って病気がちになり、それまで流暢に話していた英語がおっくうで話せなくなり、そのうちに日本語でしか会話が出来なくな

ってしまふ一世や二世もいます。そのために英語しか話せない子どもとの間で、親子のコミュニケーションが取れなくなってしまうという家族もあります。ほかにも、日本語の話せる外国人の神父ではなく、日本の国民性の分かっている日本人の神父に司牧をして欲しいという方々も大勢おられました。

現在、日本には多くの外国人が定住しています。その人たちの老後の問題の先取りを見たようなロサンゼルスでの滞在でした。



毎年この時期の教区報は、平和行事など夏の行事の報告が中心となっています。教区全体の活動を見て、来年の参考にして下さればと思います。(にん)